

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)公開番号
特開2022-38691
(P2022-38691A)

(43)公開日 令和4年3月10日(2022.3.10)

(51)国際特許分類	F I	テーマコード (参考)
E 0 4 D 13/064 (2006.01)	E 0 4 D 13/064 5 0 1 A	2 E 1 0 8
E 0 4 D 3/36 (2006.01)	E 0 4 D 3/36 A	
	E 0 4 D 13/064 5 0 2 G	

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全9頁)

(21)出願番号	特願2020-143310(P2020-143310)	(71)出願人	000165505 元旦ビューティ工業株式会社 神奈川県藤沢市湘南台1丁目1番地21
(22)出願日	令和2年8月27日(2020.8.27)	(74)代理人	100095337 弁理士 福田 伸一
		(74)代理人	100174425 弁理士 水崎 慎
		(74)代理人	100203932 弁理士 高橋 克宗
		(72)発明者	船木 元旦 神奈川県藤沢市湘南台1丁目1番地21 元旦ビューティ工業株式会社内
		Fターム (参考)	2E108 AA02 AS02 AZ08 FF07 GG00

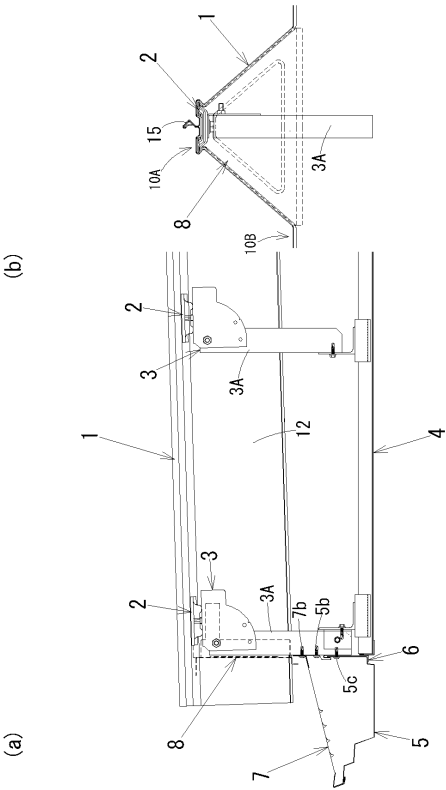
(54)【発明の名称】 軒先構造

(57)【要約】

【課題】新築、既設を問わず各種の折板屋根に容易に適用され、安定に各種の軒樋及び化粧材を取り付けることができる軒先構造を提供する。

【解決手段】本発明の軒先構造は、折板屋根における折板屋根板1の内部に位置される支持部材2，2が流れ方向に複数設けられ、それぞれの前記支持部材2，2には少なくとも垂下する縦部材3Aを備える軒先納め材3が固定され、これらの軒先納め材3には、下方から被覆するように化粧材4が取り付けられていると共に、軒先側に隣り合う前記軒先納め材3には、流れ方向に直交するように軒樋5が架設状に取り付けられていることを特徴とする。

【選択図】図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

折板屋根における折板屋根板の内部に位置される支持部材が流れ方向に複数設けられ、それぞれの前記支持部材には少なくとも垂下する縦部材を備える軒先納め材が固定され、これらの軒先納め材には、下方から被覆するように化粧材が取り付けられていると共に、軒先側に隣り合う前記軒先納め材には、流れ方向に直交するように軒樋が架設状に取り付けられていることを特徴とする軒先構造。

【請求項 2】

前記軒先納め材は、角度調整可能に取り付けられていることを特徴とする請求項 1 に記載の軒先構造。

【請求項 3】

前記軒樋の軒先側の側面上端が、前記軒樋の上面を覆うカバー材の下端と係合され、該カバー材の上端が前記縦部材に連絡されていることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の軒先構造。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、新築、既設を問わず各種の折板屋根に容易に適用され、安定に各種の軒樋及び軒天井材等の化粧材を取り付けることができる軒先構造に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、折板屋根に軒樋や化粧材を取り付ける態様としては、工場や倉庫等の大規模建造物に採用されることが多く、美観（意匠性）は採用されるうえで優先度の低いものであった。

例えば特許文献 1 に記載の構造は、折板屋根の軒先へ延出状に取り付けられた庇アーム 18 に、樋 26 や化粧材等などが固定されるものであって、庇アーム 18 は梁 14 等の構造材に取り付けられている。

また、特許文献 2 に記載の構造は、折板屋根のそれぞれの山形部 7 に縦長の取付部材 A2 が嵌合状に取り付けられ、隣り合う取付部材 A2，A2 に架け渡されるように天井主板 A1 を含む軒天井材 A が取り付けられている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献 1】特許第 2883485 号公報

【特許文献 2】特開平 6-200589 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

しかしながら、前記特許文献 1 では、庇アーム 18 が梁 14 に対してボルトナット等による締着や溶接によって取り付けられるため、何れに手法を採用しても屋根業者が自由に行えるものではなかった。即ち締着の場合には、予め梁 14 等の構造材に穿孔しておく必要（穿孔した構造材／梁を軒先に設置してもらう）があった。また、溶接の場合には、予め施工場に溶接機用の電源を確保する必要があった。さらに、前記特許文献 2 でも、取付部材 A2 の下端に軒天井材 A を取り付けするためには、同様にボルトナット等による締着や溶接が用いられるので、その問題点も全く同様であった。

加えて前記特許文献 1 では、長さや高さがはじめから決まっているため、化粧仕上げ材を配置する場所を自由に設定することができないものであった。また、前記特許文献 2 では、軒樋を設ける目的で、軒天井材 A に樋部分を設けるためには下方への荷重が大きくなるので、別途取付構造を必要とするものであった。

【0005】

そこで、本発明は、各種の折板屋根等の縦葺き屋根構造に容易に適用され、軒樋や内樋へ落ち葉等による樋詰まりを防止することなく雨水等を導くことができる軒先納め材、及び軒先構造を提案することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明は、上記に鑑み提案されたものであって、折板屋根における折板屋根板の内部に位置される支持部材が流れ方向に複数設けられ、それぞれの前記支持部材には少なくとも垂下する縦部材を備える軒先納め材が固定され、これらの軒先納め材には、下方から被覆するように化粧材が取り付けられていると共に、軒先側に隣り合う前記軒先納め材には、流れ方向に直交するように軒樋が架設状に取り付けられていることを特徴とする軒先構造を提案するものである。

10

【0007】

また、本発明は、前記軒先構造において、前記軒先納め材は、角度調整可能に取り付けられていることを特徴とする軒先構造をも提案する。

【0008】

さらに、本発明は、前記軒先構造において、前記軒樋の軒先側の側面上端が、軒樋の上面を覆うカバー材の下端と係合され、該カバー材の上端が縦部材に連絡されていることを特徴とする軒先構造をも提案する。

【発明の効果】

【0009】

20

本発明の軒先構造は、折板屋根板の内部に位置される支持部材が流れ方向に複数設けられ、それぞれの前記支持部材には少なくとも垂下する縦部材を備える軒先納め材が固定され、これらの軒先納め材には、下方から被覆するように化粧材が取り付けられていると共に、軒先側に隣り合う前記軒先納め材には、流れ方向に直交するように軒樋が架設状に取り付けられている構成であるから、新築、既設を問わず各種の折板屋根に容易に適用され、安定に各種の軒樋及び軒天井材等の化粧材を取り付けることができる。

【0010】

また、前記軒先納め材が、角度調整可能に取り付けられている場合には、任意の傾斜角度で安定に配設される、即ち任意の傾斜勾配の屋根構造に安定に軒樋を取り付けることができる。

30

【0011】

さらに、前記軒樋の軒先側の側面上端が、前記軒樋の上面を覆うカバー材の下端と係合され、該カバー材の上端が前記縦部材に連絡されている場合には、軒樋の軒先端を折板屋根側へ引っ張るように保持するため、このカバー材は軒樋の荷重を保持するアームの作用をも果たす。

【図面の簡単な説明】

【0012】

【図1】(a)本発明の一実施例(第1実施例)の軒先構造を示す側面図、(b)該軒先構造を水下側から見た正面図である。

【図2】(a)第1実施例の軒先構造に用いたカバー材を示す側面図、(b)第1実施例の軒先構造に用いた軒樋を示す側面図、(c)第1実施例の軒先構造に用いた樋受け材を示す側面図、(d)第1実施例の軒先構造に用いた支持部材を示す側面図及び正面図、(e)第1実施例の軒先構造に用いた軒先納め材の側面図及び正面図、(f)第1実施例の軒先構造に用いた面材の正面図、(g)第1実施例の軒先構造に用いた化粧材及びその取付構造を示す側面図、(h)第1実施例の軒先構造に用いた面材及びその取付構造を示す側面図である。

40

【発明を実施するための形態】

【0013】

本発明の軒先構造は、折板屋根における折板屋根板の内部に位置される支持部材が流れ方向に複数設けられ、それぞれの前記支持部材には少なくとも垂下する縦部材を備える軒先

50

納め材が固定され、これらの軒先納め材には、下方から被覆するように化粧材が取り付けられていると共に、軒先側に隣り合う前記軒先納め材には、流れ方向に直交するように軒樋が架設状に取り付けられている。

【0014】

前記支持部材を取り付ける折板屋根は、流れ方向に直交する方向（左右方向）に複数の山部及び谷部を備える折板屋根板にて形成され、例えばハゼ締め式、嵌合式等の各種の折板屋根板が知られているが、特に限定されるものではない。

【0015】

前記支持部材は、前記折板屋根板の山部の裏面側に位置されて化粧材や軒樋を支持する部材であって、流れ方向に複数設けられるが、仮に既設屋根の折板屋根の水下端に当該支持部材を組み付けるには、キャップの取付前であれば下方から嵌合させるようにしてもよいし、屋根の軒端から嵌入させるようにしてもよい。また、この支持部材は、タイトフレーム等に固定される保持部材と全く同じものを用いてもよいし、屋根内部から外れない形状であればよい。

【0016】

それぞれの前記支持部材に固定される軒先納め材は、前述のように少なくとも垂下する縦部材を備えるが、前述のように支持部材が複数設けられるので、それらの各支持部材にそれぞれ軒先納め材が固定され、それらのうち、流れ方向の最下側、即ち軒先側に位置する軒先納め材の縦部材には、流れ方向に直交するように軒樋が架設状に取り付けられる。また、それぞれ軒先納め材としては、後述する図示実施例に示すように流れ方向に延在して前記支持部材に固定される横部材を備えることが望ましい。

【0017】

前記縦部材は、後述する図示実施例のように垂下状に配設される部位であって、その下端には、下方から被覆するように化粧材（軒先天井材）が取り付けられている。特に軒先側の軒先納め材の縦部材には、軒樋を支持する樋受け材を取り付けるための位置規制や目印を意図する爪（切り起こし状）等を設けるようにしてもよい。

前記切り起こし状の爪は、上下方向に段階的に設けることで、樋受け材を取り付けるための位置規制や目印とすることができる。また、爪に代えて取付用の複数の孔を設けることで、同様の目的に用いることもできる。

【0018】

また、この軒先納め材は、角度調整可能に取り付けられていることが望ましい。即ち軒先納め材には、前記縦部材と前記横部材との拡開角度を任意に調整可能な角度調整機構が設けられていることが望ましい。

この角度調整機構としては、前記縦部材の基端に回動可能に合わせ接面される重合状の取付部を設け、例えば該取付部を扇状に形成することで、任意の傾斜角度で前記縦部材を安定に配設されることができる。しかもこの取付部に、例えば弾性を有する板状材を介在させることで、締着効果や補強効果を向上させることができる。或いは縦部材と横部材との間に、ボルト状の調整具を架け渡して連結し、ナット状部分を回動させるだけで架け渡し間隔を調整できる態様を採用してもよい。

【0019】

前記軒先納め材の縦部材の下端に取り付けられる化粧材は、下方から被覆する役割を果たす部材であって、後述する図示実施例のように軒天井材を兼ねるものでもよい。前述のように複数設けられる軒先納め材の縦部材の下端に吊り支持されるので、この化粧材の荷重等は、それぞれの縦部材から支持部材に負担されるので、一つ一つの支持部材に分担できる。

【0020】

前記軒先納め材のうち、軒先側に配置された軒先納め材の縦部材に固定される樋受け材は、軒樋の底部を支持可能な支持部を備えると共に、軒樋の建築物側の側面を受支する受支部を備えることが望ましく、該樋受け材に支持される軒樋は、内部に雨水等の排水路が設けられているものであれば、その材質や寸法、形状等については限定されるものではなく

10

20

30

40

50

、樋として汎用されているU字状、半円状、角状（コ字状）等を用いることができる。また、この軒樋の建築物側の側面下端には、前記樋受け材に支持される被支持部が形成されていることが望ましく、例えば後述する図示実施例のように隅部状又は角状のものを例示することができる。

【0021】

なお、前記軒樋の開放上面にはカバー材が配設されることが望ましい。

このカバー材は、前記軒樋の開放上面を覆うことで、内部に降雪が堆積したり、落ち葉等が侵入、堆積したり、鳥類等が巣作りすることを防止する作用をも果たし、その表面には雨水を内部へ導く導水口、例えば小径のスリット孔が形成されて雨水のみを軒樋内に導く作用をも果たす部材である。

また、このカバー材の望ましい態様としては、後述する図示実施例のようにその下端が軒樋の軒先端と係合して取り付けられ、且つその上端が前記縦部材に連絡されて取り付けられる。このカバー材の下端には、後述する図示実施例に示すように下方へ更に内側へ折曲した略コ字状の係合部が設けられることで、その裏面側に位置する軒樋の軒先端を係合させ、折板屋根側へ引っ張るように保持するため、このカバー材は軒樋の荷重を保持するアーチの作用をも果たす。

【0022】

これらの支持部材や軒先納め材を新設又は既設の折板屋根に配設する手順としては、予め前記支持部材及び軒先納め材を組み付けておき、これらを折板屋根に取り付け、それと同時に、或いはその後に、化粧材や軒樋（樋受け材及びカバー材）を取り付けるようにしてもよい。

なお、折板屋根の内部に支持部材を位置させるには、前述のようにキャップ材の配設前に下方から嵌合状に取り付けてもよいし、折板屋根の先端（軒先端）からの嵌入状（挿嵌状）に取り付けてもよい。その支持部材には、前述のように予め縦部材が組み付けられているが、折板屋根の内部に支持部材を位置させる操作に特に支障を生ずることなく容易に施工作業を行うことができる。

【0023】

本発明の軒先構造は、これらの各部材から構成されるものであって、新設又は既設の折板屋根に対し、前記支持部材が流れ方向に複数取り付けられ、それぞれの支持部材には少なくとも垂下する縦部材を備える前記軒先納め材が固定され、これらの軒先納め材には、下方から被覆するように前記化粧材が取り付けられていると共に、軒先側に隣り合う軒先納め材には、流れ方向に直交するように前記軒樋が架設状に取り付けられている構成であるから、新築、既設を問わず各種の折板屋根に容易に適用され、安定に各種の軒樋5を取り付けることができる。

【実施例1】

【0024】

図1（a）、（b）に示される第1実施例の軒先構造は、折板屋根における折板屋根板1の内部に位置される支持部材2、2が流れ方向に複数設けられ、それぞれの支持部材2には少なくとも垂下する縦部材3Aを備える軒先納め材3が固定され、これらの軒先納め材3には、下方から被覆するように化粧材4が取り付けられていると共に、軒先側に隣り合う軒先納め材3には、流れ方向に直交するように軒樋5が架設状に取り付けられている構成である。

【0025】

この第1実施例の折板屋根板1は、図1（b）に示されるように左右方向に複数の山部10A及び谷部10Bを備え、その一つの山部10Aを図1（b）に示しているが、ハゼ締め式で接続される構造が示され、その内部には、図1（a）に示されるように流れ方向（＝同図の左右方向）に複数の支持部材2、2が取り付けられている。

この折板屋根板1は、図2（d）に示されるように平板部11の両端が傾斜状に立ち上げられ（傾斜状の立ち上げ部12が設けられ）、該立ち上げ部12の上端に折返し状に上方へ延在させた折返し部13が形成され、更にその折返し部13の上端を略水平状に折り返

10

20

30

40

50

した支持面部 1 4 が設けられ、該支持面部 1 4 の端縁を上方へ延在させてその先端を隣り合う折板屋根板 1 とハゼ締め（ハゼ部 1 5）にて接続する構成であり、図示しないタイトフレームに固定される保持部材にて強固に且つ安定に取り付けられている。このタイトフレームは、下端が躯体に固定され、保持部材としては、正面から見て前記支持部材 2 のように見える（同一物品でもよい）ものが用いられる。

【0026】

前記支持部材 2 は、図 1（a）に示されるように前記折板屋根板 1 の山部 1 0 A の内部に複数設けられる部材であって、前記折板屋根板 1 の立ち上げ部 1 2 と折返し部 1 3 間に形成されるく字状部 1 6 a、折返し部 1 3 と支持面部 1 4 間に形成されるく字状部 1 6 b に、それぞれ弾性嵌合される下側凹状部 2 1、上側凸状部 2 2 をそれぞれ左右に備えている。

10

そのため、前記支持部材 2 は、左右に隣り合う前記折板屋根板 1，1 の立ち上げ部 1 2 と折返し部 1 3 間に形成されるく字状部 1 6 a、折返し部 1 3 と支持面部 1 4 間に形成されるく字状部 1 6 b が、それぞれ下側凹状部 2 1 及び上側凸状部 2 2 を弾性状に保持するため、左右に隣り合う前記折板屋根板 1，1 に、安定に支持されるものである。

なお、この支持部材 2 は、折板屋根板 1 の山部 1 0 A の内部に配置可能であって、その組み付け後に容易に外れない形状であればよく、折板屋根板 1 に対して嵌合状に配置させるものであっても、折板屋根板 1 の先端（軒先端）からの嵌入、挿嵌状に配置させるものであってもよい。

【0027】

前記軒先納め材 3 は、図 2（e）に示されるように下方へ延在する縦棒状の縦部材 3 A を含んでおり、基端に扇状部分 3 1 を含んで流れ方向に延在する横部材 3 B が組み合わされ、角度調整可能に取り付けられている。

20

前記縦部材 3 A は、上端に前記横部材 3 B（扇状部分 3 1）と重合する扇状部分 3 2 を備えて上下方向に延在する部材（L 字材）であって、その横部分 3 4 も縦部分 3 5 も縦長の略矩形状であり、前記横部材 3 B は、縦部分が流れ方向に延在する前記扇状部分 3 1 であって横部分がそこから略水平状に延在する固定面 3 3 である L 字材である。

なお、これらの「L 字状材」は、正面から見える横部分と側面から見える縦部分とからなる L 鋼等の素材からなることを意味し、前記扇状部分 3 2，3 1 は、それぞれの縦部分に形成されている。

30

それぞれの扇状部分 3 1，3 2 を接面状に重合させ、少なくとも一箇所に固定具を打ち込むことにより、横部材 3 B と縦部材 3 A との傾斜角度を調整することができる。即ちこれらの構成は、前記角度調整機構の一態様である。この態様では、扇の要になる位置を、第 1 の固定部 3 6 とし、該固定部を軸として回動でき、周囲に相当する位置を第 2 の固定部 3 7 a、3 7 b としたので、適宜に回動させて固定具を打ち込んで容易に角度調整することができる。

【0028】

この第 1 実施例における前記折板屋根は、水平方向に延在する躯体上にタイトフレームが固定され、該タイトフレームに保持部材が固定され、該保持部材に折板屋根板 1 が保持される嵌合式構造であって、隣り合う折板屋根板 1，1 は、ハゼ締め式で取り付けられている。

40

なお、前記折板屋根板 1 は、面板部 1 1（谷部 1 0 B）の両側縁 1 2，1 2 を表面側に立ち上げた折板屋根を構築する部材であって、立ち上がり部 1 2 の高さの中程には保持部材に弾性的に係合されるく字状の係合部 1 6 a，1 6 b が形成され、左右に隣り合う折板屋根板 1，1 の上端はハゼ締めにて接続されている。

このような折板屋根においては、山部 1 0 A は立ち上がり部 1 2，1 2 から上方部分が相当し、谷部 1 0 B は面板部 1 1 が相当し、雨水等は谷部 1 0 B である面板部 1 1 を流れ方向に流下する。

【0029】

前記軒先納め材 3 のうち、軒先側に配置された軒先側の軒先納め材 3 の縦部材 3 A に固定

50

される樋受け材 6 は、図 2 (c) に示されるように軒樋 5 の側面部 5 3 から前記縦部材 3 A への固定部 6 1 と、軒樋 5 の建築物側の側面部 5 3 の下端 5 3 1 を受支する受支部 6 2 と、を備えている。この樋受け部材 6 は、軒樋 5 の建築物側の側面部 5 3 の下端 5 3 1 を支持する受支部 6 2 の他に、高さの中程に、側方へ垂れ下がる膨出部 6 4 を設けることで、下方が開放する溝状 6 3 が形成され、軒樋 5 の建築物側の側面部 5 3 の上端 5 3 2 を下方から差し込むように取り付けることができる。

【0030】

前記樋受け材 6 に支持される軒樋 5 は、図 2 (b) に示されるように前記樋受け材 6 に受支されて内部に U 字状の雨水等の排水路が設けられる部材であって、内部に導かれた雨水等は排水路から底面部 5 1 を流下される。

この軒樋 5 は、長さ方向に延在して略平坦状の底面部 5 1 の側端が立ち上げられ、軒先側（図面では左側）に、三つの傾斜面と二つの略水平面とで構成される側面部 5 2 が設けられ、建築物側（図面では右側）には、略垂直状に起立する側面部 5 3 が設けられ、これらの底面部 5 1 及び側面部 5 2, 5 3 にて排水路が形成されている。

前記軒先側の側面部 5 2 の上端に位置する傾斜面と略水平面は、カバー材 7 の係合部 7 2 に保持（係合）される軒先端 5 2 1 である。また、前記側面 5 3 の下端には、隅部状の被保持部 5 3 1 が設けられ、前記樋受け材 6 の横片状の受支部 6 2 に、上方から載置状に配置されて支持される部位である。さらに、この側面部 5 3 の上端には、差込状の被取付部 5 3 2 が、前記樋受け材 6 の溝状の取付部 6 3 に、下方から挿入状に差し込まれて取り付けられる部位である。なお、この軒樋 5 は、前記軒先納め材 3（縦部材 3 A）にビス 5 b にて固定されるが、前記樋受け材 6 と共に配されてビス 5 c にても固定されている。

【0031】

前記軒樋 5 の開放上面にはカバー材 7 が配設されているが、このカバー材 7 は、図 2 (a) に示されるようにその下端（軒先端）7 2 が前記軒樋 5 の軒先端 5 2 1 と係合され、その上端 7 3 が前記軒先納め材 3（縦部材 3 A）に連絡されている。

このカバー材 7 は、前記軒樋 5 の内部に降雪が堆積したり、落ち葉等が侵入、堆積したり、鳥類等が巣作りすることを防止する部材であって、その表面（化粧面 7 1）には雨水を内部へ導く導水口 7 1 1 として複数のスリット孔が形成され、その下端には略コ字状に形成された下端（係合部）7 2 が、前記軒樋 5 の軒先端 5 2 1 と係合して取り付けられ、その上端付近に固定部 7 3 が形成され、該固定部 7 3 が、前記縦部材 3 A に固定されている。

前記係合部 7 2 は、化粧面 7 1 の軒先端から斜め上方へ延在し、その先端を下方へ折曲し、更にその下端を内側へ折曲した略コ字状に形成され、化粧面 7 1 と係合部 7 2 との境界には下方へ凹む排水溝 7 1 2 が形成され、所定間隔で導水口が形成されている。

前記固定部 7 3 は、化粧面 7 1 の建築物側端付近に位置する部位であって、前記軒先納め材 3（縦部材 3 A）にビス 7 b にて固定されている。

【0032】

前記軒先納め材 3 の縦部材 3 A の下端に取り付けられる化粧材 4 は、下方から被覆する役割を果たす軒天井材であり、図 2 (g) に示されるように縦部材 3 A の下端に取り付けられた金具 4 A, 4 B、流れ方向に連続する補強金具 4 C を介して固定されており、この化粧材 4 の荷重等は、それぞれの縦部材 3 A から前記支持部材 2 に負担（分担）される。

【0033】

なお、この第 1 実施例の軒先構造には、図 2 (f) に示される面材 8 が取り付けられ、該面材 8 が折板屋根の山部 10 A の内部を軒先側から隠すと共に、軒先からの吹き上げ風の侵入を防ぐ役割も果たしている。この面材 8 は、前記軒先納め材 3 の縦部材 3 A に固定される取付部材 8 A の軒先側に固定されており、該取付部材 8 A は正面視が三角枠状に形成されている。

【0034】

この第 1 実施例の軒先構造を既設の折板屋根に固定するには、予め軒先納め材 3 を取り付けした支持部材 2 を、流れ方向に複数固定する。

続いて、取り付けた軒先納め材 3 の縦部材 3 A が鉛直状になるように微調整して臨ませ（固定し）、それぞれの縦部材 3 A に金具 4 A ～ 4 C を固定すると共にそれらに化粧材 4 を取り付ける。

また、軒先側に配置された軒先納め材 3 の縦部材 3 A に、樋受け部材 6 や軒樋 5、及びカバー材 7 を取り付ければよい。その際、軒樋 5 及びカバー材 7 は、流れ方向に直交するように取り付けるが、所定間隔で取り付ける樋受け材 6 は、隣り合う縦部材 3 A にそれぞれビス 5 b, 5 c にて固定して取り付ける。

【0035】

このように施工された第 1 実施例の軒先構造は、新築、既設を問わず各種の折板屋根に容易に適用され、安定に各種の軒樋 5 及び軒天井材等の化粧材 4 を取り付けることができる。

10

【0036】

さらに、この第 1 実施例では、軒先納め材 3 が、角度調整可能に取り付けられているので、任意の傾斜角度で安定に配設される、即ち任意の傾斜勾配の屋根構造に安定に軒樋 5 を取り付けることができる。

【0037】

また、この第 1 実施例では、軒樋 5 の軒先側の側面上端 5 2 1 が、この軒樋 5 の上面を覆うカバー材 7 の下端（係合部 7 2）と係合され、該カバー材 7 の上端（固定部 7 3）が縦部材 3 A に連絡されているので、軒樋 4 の軒先端 5 2 1 を折板屋根側へ引っ張るように保持するため、このカバー材 7 は軒樋 5 の荷重を保持するアームの作用をも果たす。

20

【0038】

このように本発明の軒先構造では、軒天井材等の各種の化粧材 4 は、多数の軒先納め材 3 の縦部材 3 A に支持され、各種の軒樋 5 は、軒先側に取り付けられた複数の縦部材 3 A に架設状に取り付けられているため、それぞれ様々な仕様の化粧材 4 や軒樋 5 を適宜に用いることができる。

特に前記第 1 実施例では、カバー材 7 が軒樋 5 の荷重を保持するアームの作用を果たすので、例えば多量の降雪がカバー材 7 の上面に堆積したり、軒樋 5 の内部に多量の雨水が流れることがあっても、該荷重によって軒樋 5 が変形したり或いは下方へ傾倒したり落下することを防止できる。

【符号の説明】

30

【0039】

1 折板屋根板

10 A 山部

10 B 谷部

2 支持部材

2 1 下側凹状部

2 2 上側凸状部

3 軒先納め材

3 A 縦部材

3 B 横部材

4 化粧材

4 A L 字金具

4 B 金具

4 C 補強金具

5 軒樋

5 1 底面部

5 2 （軒先側の）側面部

5 2 1 軒先端

5 3 （建築物側の）側面部

5 3 1 被支持部

40

50

5 3 2 側面上端（被取付部）

6 樋受け材

6 2 支持部

6 3 取付部

7 カバー材

7 1 化粧面

7 1 1 導水口

7 1 2 排水溝

7 2 係合部

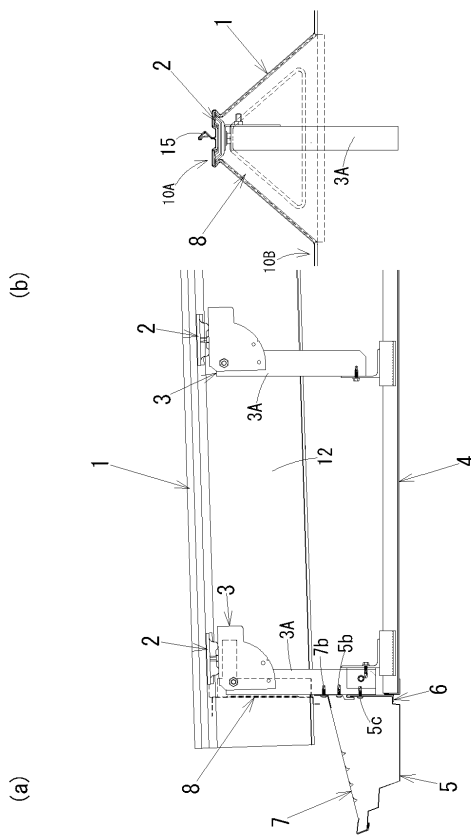
7 3 固定部

8 面材

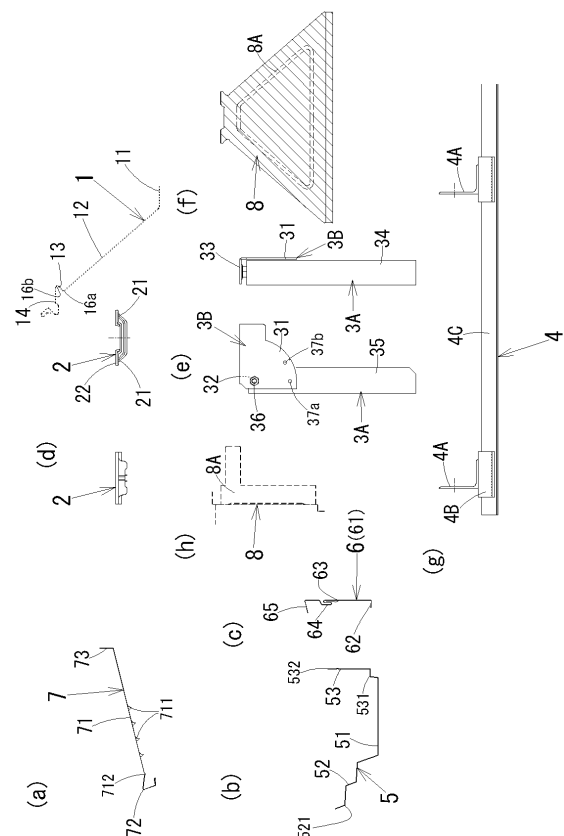
8 A 取付部材

【図面】

【図 1】



【図 2】



10

20

30

40

50